

記念講演 I

## 『まさか』の時代の市場と経済

滝田 洋一  
株式会社日本経済新聞社  
編集局 編集委員

### 目 次

1. 「まさか」の時代
2. 「まさか」の連続の背景
3. マクロ経済・金融について

### 1. 「まさか」の時代

小泉元総理は、人生には三つの坂があるといった。上り坂、下り坂、そして「まさか」である。今のマーケットでも、サプライズが多く起こっている。2016年6月の英国の国民投票では、多くの専門家の予想に反してEU離脱（Brexit）が決まった。その後も、専門家の見通しが外れ続けた。16年11月の米国大統領選でも、ヒラリー・クリントン氏当選の見通しに反して、ドナルド・トランプ氏が当選した。17年5月のフランスの大統領選では、極右派のマリーヌ・ルペン氏が決選投票にまで残り、大統領になるかもしれないと言われた。韓国大統領選では、左派の文在寅候補が当選した。17年6月の英国総選挙では、テリーザ・メイ首相が、EU離脱交渉を進めるうえで政治基盤を固めるために、解散総選挙に踏み切った。しかし、保守党は過半数議席を取れず敗北した。これも、事前の見通しが外れた。17年9月には、ドイツ総選挙で、アンゲラ・メルケル首相率いる与党のキリスト教民主同盟が議席を大幅に減らし



た。ドイツでは、第二次大戦後、得票率が5%に満たない政党は連邦議会で議席を取れないが、右派政党の「ドイツのための選択肢」が、票を5%以上獲得し、右翼政党として戦後初めて議席を得た。専門家は、メルケル四選は確実で無風だと予想していたが、結果は大きなサプライズを伴うものとなった。「政治の世界は、一寸先は闇だ」と、自民党の党人派の長老であった川島正次郎氏が名言を吐いた。17年10月の日本の総選挙では、これを絵に描いたような展開になっている。たくさん報道されているような局面の転換があつて、自